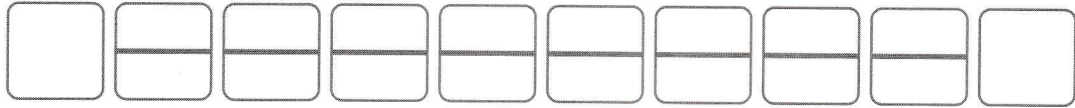


■2020年(令和2年)1月7日 内外教育 第3種郵便物認可



ラウンジ

試験再考

○：試験はどのようにあるべきなのか、試験に関する議論が盛んになっている。大学入試では社会的な格差によらない平等な受験の機会があり、公正な採点が行われなければならないことはいつの時代も変わらない。

○：これまでは、筆記の一般入試(学力入試)の点数による選抜が最も公正なものと考えられてきた。しかし、その形式的な平等は必ずしも結果の平等をもたらさない。早期教育や塾通いの差が結果に反映されたり、暗記や文字重視の選抜試験は特定の階層の子弟に有利に働いたりして、親の社会的階層(格差)が結果に反映している。

○：明治の時代の大学には外国人教師が多く、その講義(言語)が理解できることが必須であった。もともと、大学入試は大学の教育を理解できる学力があるかどうかの資格試験であった。その後の大学進学希望者の増加により、資格試験から選抜試験に変化した。そして現在は18歳人口の減少に伴い、大学入学希望者が大学の入学定員に近い状態になり、選抜試験の意味が薄れてきた。推薦入試やAO入試で早く定員を確保したいという大学の意向も、一般入試の衰退を招いた。

○：大学の選抜(受験)試験競争が過酷な時

代は、大学入試の在り方が中等教育の在り方に大きな影響を与えていた。入試で暗記中心の問題が出れば、中学校や高校では暗記中心の教育が行われた。日本の教育の諸悪の根源は受験競争にあり、大学入試を変えれば小中高校の教育は変わるといわれた。しかし、大学入試の選抜機能が衰退している現在、その効果を以前のように期待することはできない。

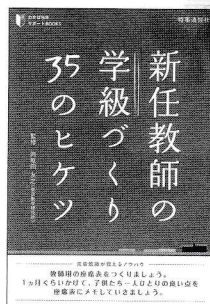
○：さらに、入学試験だけではなく、学校や大学における通常の試験についても再考を迫られている。「裸の学力」を測るこれまでの試験の在り方に疑義が生まれている。

○：私たちは日常生活でさまざまな道具を使い、いろいろな人に相談して物事を判断している。それに対して、試験では道具を使うことも本やインターネットで調べられることも禁止され、暗記を頼りに鉛筆一本で解答しなければならぬ。それは、あたかも魚の能力を自然状態ではなく、まな板の上で調べるようなものであるといわれている。最近のテレビのクイズ番組では、出演者が暗記能力ではなくスマートフォンを使って検索し答えるものがある(クイズハッカー)。一般入試より推薦入試やAO入試の方が生徒の能力を自然に近い状態で測定できる側面もある。

○：外部の基準で測られた学力ではなく、子ども自らがどこまで学んだかが自覚できて、さらなる学びを動機付けられる試験(評価)が、今の時代に求められている。

(Q)

わかば先生サポートBOOKS 初任の先生から教職歴3年目ぐらいの先生を応援するシリーズ本です。

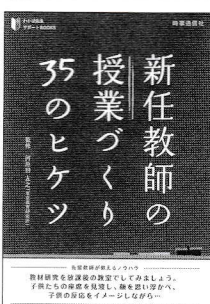


「先生のクラスでよかった!!」
と言われる学級づくりのコツをこの1冊で

新任教師の学級づくり 35のヒケツ

—先輩教師が教えるノウハウ—
教師用の座席表をつくりましょう。
1カ月ぐらいかけて、子供たち一人ひとりの良い点を座席表にメモしていきましょう。

河原田友之[監修] ●A5判・160頁●本体価格1800円(税別)




「先生の授業って楽しい!!」
と言われる授業づくりのコツをこの1冊で

新任教師の授業づくり 35のヒケツ

—先輩教師が教えるノウハウ—
教材研究を放課後の教室でしてみましょ。子供たちの座席を見渡し、顔を思い浮かべ、子供の反応をイメージしながら...

河原田友之[監修] ●A5判・160頁●本体価格1800円(税別)

 時事通信社 時事通信出版局 営業企画部 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル TEL 03-5565-2155 <https://bookpub.jiji.com/>